

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400401		
法人名	社会福祉法人 きづき会		
事業所名	グループホーム きづきの家(結ユニット)		
所在地	出雲市大社町杵築西2629		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム
所在地	出雲市今市町650
訪問調査日	令和3年3月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は変化していく利用者様の状態に柔軟に対応していく。利用者様のしたいことや出来る事に目を向け、それを生かした支援をするよう努めてきました。年々ADLも低下していく中、日々利用者様の状態を把握し、個々にあった対応を検討していきました。利用者様のしたい事を聞き出すのは難しく、出来る事を探し出し援助していった。新型コロナウイルス感染症が流行り、家族様との面会の回数も減り、家族様の事を忘れられないよう、写真を見てもらったり、手紙を書いてもらうなど今後も続けていこうと思っています。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「緑ユニット」に記載しています。
------------------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を中心に、職員が一丸となり理念を踏まえ同じ方向を向いてケアできるよう努力している。また、新しく入職してくる職員にもきちんと理解できるよう指導している。	「縁ユニット」に記載しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事にも参加している。施設に足を運んでもらえるよう、施設行事にも案内し参加して頂いている。地域の美容院や、買い物にも出かけている。今年度は、コロナウイルスの関係で中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し、町内の皆さんに回覧し見てもらっている。年に一回は、勉強会を開きなるべくたくさんの人に足を運んで頂けるよう工夫している。今年度は、中止している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、運営推進会議を実施。施設内の行事や日常の様子をスライドにして見てもらっている。今年度は、コロナウイルスの関係で開催出来ない月には書面会議を実施した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、運営推進会議での連絡や相談を行っている。また、必要な時には窓口や電話にて相談することもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束適正化委員会を開き日々のケアの振り返りを行っている。また、年に2回勉強会を実施したり研修会に参加し学びを深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、スピーチロックに焦点をあて日々のケアの振り返りや入居者様に対しての言葉使い等の見直しをおこなった。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に盛り込み、勉強会を実施し理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の際は、契約書や料金の説明等ご家族に分かりやすく丁寧に説明し理解して頂いている。法改正等での料金改正時にも、同様の対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望については、運営推進会議や面会の際に聞き取りをさせて頂いている。管理者だけでなく、職員も積極的に声をかけ利用者や家族に安心して生活して頂けるように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を実施。そこで出た意見や要望については、リーダー会で検討している。また、普段から職員が管理者へ話やすい環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回人事考課を行い、その結果を踏まえ給与等の待遇面に反映している。また、面談も行い課題や目標について話す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事考課制度を実施し、各職員の自己評価、各事業所責任者による評価を行っている。また、年間の研修計画を作成し職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、勉強会や忘年会職員旅行など交流する機会がある。管理者や介護支援専門員は、外部との交流もあるが現場の職員は難しい現状もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際、本人や家族に要望や不安な所をしっかりと聞き、安心して生活してもらえるよう関係作りに努めている。また、意志疎通が難しい方であっても同様である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者や介護支援専門員が、聞き取りを行うが、面会等職員も積極的に声をかけ信頼関係を作るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の様子を踏まえた上で家族に伝え、必要としている支援について一緒に考え取り組むよう努力している。 その方に何が必要なのか、週単位で観察しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という事から、掃除や洗濯などの日常生活を利用者と職員がお互い助け合うことで関係を気づいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係を大切にしている。 利用者との会話の中に、家族の話題を出し面会時には様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や場所など、出かけることができるよう支援している。今年度は、コロナウイルスの関係で出かけることが出来ていないが、普段の会話の中で話題に上がるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志いい関係が保てるよう、日々観察し対応している。また、一人で過ごされている利用者に職員が声をかけ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所等へ、移られる際には情報提供し今までの生活が継続できるようこころ掛けしている。また、同じ法人内へ移られる時には様子を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、一人一人の思いをくみとる事ができるよう努めている。意思疎通が難しい方には、家族の聞き取りをし生活歴を踏まえケアしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、本人や家族へ聞き取りをし生活歴を踏まえ、その人らしく生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、日々の体調の変化の目安としてチェックしている。日常会話や表情の中から、いつもと変わった事があれば詳しく記録し情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、計画作成をしている。作成後、ユニット職員で共有しケアの統一に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を通し、情報共有を行っている。連絡ノートにも、注意して欲しいことやき気づきなど記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、出来るだけ柔軟な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の中での、生活だけにならないよう行きつけの美容院や場所、買い物等地域資源の活用にかけているが現在は外出することが難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をどこにするか相談し、医院を決めている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医、訪問看護、家族と相談し適切な医療が提供できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いなさ園の訪問看護ステーションと連携している。週一回の訪問に加え、24時間体制で相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い安心して入院生活が送れるよう支援している。また、入院中も面会や病院側に情報収集し、ホームへ帰られてからの生活に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化に応じて、本人や家族の要望を取り入れながらケアの方向性を決めるようにしている。また、主治医や訪問看護にも伝えアドバイスしてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に学ぶ機会をつくり、いざと言う時に動けるよう努力している。また、事故発生時には振り返りをし次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間を想定し、避難訓練を行い安全に避難できるよう訓練している。また、地域の方にも参加して頂き、協力が得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー配慮に気を付けている。声かけは、とても大切な事だと思うので日々失礼のないように心がけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人の思いが引き出せるよう、努力している。また、選択できる物を用意し選んで頂ける場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースに合わせて支援できるよう心掛けてはいるが難しい場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、気を付けている。髭剃りや化粧など1人では難しい方には職員と一緒にやることでその人らしさを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き出前したり、おやつ作りをしたりされている。盛り付け等、感染対策により出来てないが片付けは手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、職員間で共有している。また、形態もその人に合わせたものになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。介助が必要な方は、拒否もあるので時間をずらしたり他の職員が交代している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るだけ、行えるよう支援している。また、個々にあった紙パンツやパットを定期的に見直し検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後トイレに座ってもらったり、水分の工夫(牛乳)をしたりして便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られている時間の中で、できるだけゆっくり入ってもらえるようにしている。少しでも、自分で洗えたり拭けたりという所も大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて、柔軟に対応できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルにとじ、職員の目の届く所に置き確認チェックしている。また、薬の変更等ある時には連絡ノートにも記入し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、一人一人が出来る事を役割として行ってもらっている。また、継続して支援できるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に添えるように支援してきたが、現在コロナウイルスの関係で出来ていない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、自分でお金を持っておられる。その中から、好きな物を買ったり美容院代にあてておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染対策のため、面会制限があり電話やライン電話を活用している。携帯電話で、電話されたりパソコンでスカイプを使ってお話される方もおられ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節感が出るように壁絵を作成し掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされたり、各テーブルで本を読んだり、そこに人が集まったりと良いつながりが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使っておられた家具や写真など持ち込んで頂き本人が安心して生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう努力している。手すり等がっていない場所もあるので見守りを行い自立した生活ができるようにしている。		